

ねんど  
2012年度  
おおたくたぶんかきょうせいすいしんきょうぎかい  
大田区多文化共生推進協議会  
ほうこくしょ  
報告書

ねん がつはつ か  
2013年2月20日

## もく じ 目 次

- 1 おおたく たぶん かきょうせい すいしんきょうぎかい ほうこくしょ さくせい  
大田区多文化共生推進協議会報告書の作成にあたって・・・3 ページ
- 2 おおたく たぶん かきょうせい  
大田区における多文化共生について・・・・・・・・・・・・・・ 5 ページ
- 3 おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13 ページ
- 4 しりょう  
資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14 ページ

# 1 大田区多文化共生推進協議会の報告書作成にあたって

おおたくとたぶんかきょうせいすいしんきょうぎかい い か きょうぎかい おおたくとたぶんかきょうせいすいしん ぶらん  
大田区多文化共生推進協議会(以下「協議会」という)は、大田区多文化共生推進プラン  
へいせい ねん がつ にちくちようけつてい もと おおたく たぶんかきょうせいしやかい じつげん む くみん  
(平成22年3月31日区長決定)に基づき、大田区における多文化共生社会の実現に向け、区民  
しゅたいてき さんかく ぐたいてき かだい きょうぎ ば ねん がつ せっち  
の主体的な参画により、具体的な課題を協議する場として、2011年11月に設置された。

おおたくとたぶんかきょうせいすいしんきょうぎかい せっちようこう へいせい ねん がつ にちくちようけつてい きょうぎかい  
大田区多文化共生推進協議会設置要綱(平成23年9月5日区長決定)において、協議会は  
たぶんかきょうせい すいしん かん ちようさけんきゆう くちよう ていげん た  
「多文化共生の推進に関することを調査研究し、区長に提言をするものとする」「その他  
たぶんかきょうせいすいしんきょうぎかい さだ じこう くちよう ほうこく さだ  
多文化共生推進協議会が定めた事項を区長に報告する」と定められている。

きょうぎかい がいこくじんくみん にほんじんくみん こくさいこうりゆうだんたい かつどう くみん こくさいこうりゆう  
協議会は、外国人区民、日本人区民、国際交流団体で活動している区民、国際交流  
ぼらんていあ かつどう くみん じちかいちようかい だいひよう くみん ねんにんき めい  
ボランティアとして活動している区民、自治会町会を代表する区民など、2年任期の16名  
いいん こうせい おおたく す くみんどうし ちよくせつきょうぎ きちよう きかい  
の委員で構成され、大田区に住んでいる区民同士が直接協議できる貴重な機会であった。

きょうぎかい たぶんかきょうせい かん さまざま ぎろん かさ  
協議会では多文化共生に関して様々な議論を重ねてきた。

しよねんど ねんど かい きょうぎかい かいさい たぶんかきょうせい なに こんぼんてき と  
初年度である2011年度は3回の協議会を開催し、多文化共生とは何かという根本的な問  
はじ くに おおたく ぎょうせい ぐたいてき と く かくにん うえ おおたく  
いかけから始まり、国・大田区など行政の具体的な取り組みを確認した上で、大田区にお  
たぶんかきょうせい む かだい ちゆうしゆつ ねんど ねんど ちゆうしゆつ  
ける多文化共生のまちづくりに向けた課題を抽出した。2012年度は、2011年度に抽出し  
かだい なか ゆうせんてき きょうぎ かだい こそだ しえん がいこくじん じようほう  
た課題の中から優先的に協議すべき課題をしばらくこみ、「子育て支援」と「外国人への情報  
ていきょう てん きょうぎ て ーま ぜんしや こ ちゆうしん かぞく しえん しや い  
提供」の2点を協議のテーマとした。前者は子どもを中心とする家族への支援を視野に入  
て ーま こうしや ひがしにほんだいいんさい きょうくん う さいがいほっせい じ そな にちじよう  
れたテーマであり、後者は東日本大震災の教訓を受け、災害発生時の備えとして日常の  
じようほうていきょう ふく て ーま  
情報提供も含めたテーマであった。

ねんど きょうぎ ぶんかかいほうしき かい きょうぎかい とお て ーま ふか ほ  
2012年度の協議は、分科会方式とし、4回の協議会を通して、それぞれのテーマを深く掘  
さ つと く かんけいぶぎよく おのおの ぶんかかい しゅつせき いいん  
り下げるよう努めた。また、区の関係部局が各々の分科会に出席したことにより、委員と  
ぎょうせいしよくいん ちよくせついいんこうかん おこな いいん りあるたいむ  
行政職員とが直接意見交換を行うこともできた。これにより、委員はリアルタイムで  
おおたく ぎょうせい さ ーびす げんじよう し いっぽう しゅつせき しよくいん ちよくせつくみん  
大田区の行政サービスの現状を知ることができた。一方、出席した職員からも、直接区民  
こえ き い ぎ おお かんぞう き おな ば くみん かんけいぶぎよく おおたく  
の声を聞けた意義は大きいとの感想が聞かれた。同じ場で、区民・区関係部局が大田区  
たぶんかきょうせいしやかい いけん か きょうぎかい きんたいてき さんかく  
多文化共生社会について意見を交わすことができたこの協議会は、「区民の主体的な参画  
たぶんかきょうせいしやく すいしん もくてき かな かんが  
により多文化共生施策を推進する」という目的に適っていたと考えられる。

きょうぎかいいがい じかん いいんゆうし じしゆてき いけんこうかん かいさい ぼらんていあにほんご  
協議会以外の時間でも、委員有志で自主的な意見交換を開催したり、ボランティア日本語  
きょうしつ げんかく にほんごきょうしつ かんけいしや こんだんかい じつし ねんど かつどう  
教室の見学や日本語教室の関係者との懇談会を実施したりするなど、2012年度は活動が  
かっぱつか  
活発化した。

たぶんかきょうせい きょうぎ すす なか いいんかん たぶんかきょうせいしやかい たい  
多文化共生のまちづくりに関して協議を進める中で、委員間でも多文化共生社会に対す  
かんが かつ かだい にんしき かいけつさく かんが かつ いけん ちが う ぼ すく  
る考え方や課題の認識、解決策など、考え方や意見の違いが浮き彫りになることも少なく  
めい いいん ぎろん おお かんが かつ まん  
なかった。16名の委員での議論でさえ、このように多くの考え方があることから、69万を

こ おおたくみん なか たよう かんが かた いけん すいそく  
超える大田区民の中では、もっと多様な考え方や意見があることを推測できる。

しかし、協議会の中で共有できたことがある。それは、外国人が住みやすいまちをつく  
ることが多文化共生のまちづくりではなく、がいきくじん外国人も、にほんじん日本人も、しょうがい障害のある人も、ひと こうれいしゃ高齢者  
も大人も子どもも、おとな こすべての人が住みやすいまちをつくることたぶんかきょうせいが多文化共生のまちづくり  
の原点だということである。

ほんほうこくしょ本報告書は、いいん つよ おも ここうした委員の強い思いを込めて、おおたく たぶんかきょうせいしさく大田区の多文化共生施策の更なる充実  
さくせいのために作成したものである。

ねん がつはつ か

2013年2月20日

おおたく たぶんかきょうせいすいしんきょうぎかい  
大田区多文化共生推進協議会

おおたく たぶんかきょうせい  
2 大田区における多文化共生について

てーま こそだ しえん  
テーマ1：子育て支援

おおたく とりくみ  
◆大田区の取組

「子育て支援」には、子どもに対する支援だけでなく、親の支援、また、外国人の子育て家庭の背景や生活環境を含めた支援などが考えられる。

このような子育て支援としては、大田区の多文化共生事業のひとつに、大田区多文化共生推進センター（以下「mics（ミックス）おおた」という※）から区施設への通訳派遣があり、窓口での子育て相談や保育園での面談の際などに外国人親子の通訳をしている。さらに、子ども家庭支援センター「キッズな蒲田」を利用する外国人親子のために通訳者等を派遣するなど、mics おおたと区施設の連携を強化しているところである。

日本語を母語としない外国人児童・生徒に対しては、小・中学校において60時間を上限として日本語特別指導を実施している。日本語特別指導では母国語を使用した個別指導を行っており、日本語特別指導を60時間行った後も日本語指導が必要である場合には、蒲田小学校・蒲田中学校に設置されている日本語学級に通級できる制度がある。

また、子どもの日本語学習支援を含め、区内各所で16団体のボランティアグループによる日本語教室が設けられている。（区内の日本語教室については大田区ホームページで紹介している。）



▲mics おおた  
かいほうてき ふんいき あし ふ い たげんご  
開放的な雰囲気、足を踏み入れやすい。多言語  
しりょう ほうふ  
資料も豊富。

◆ 協議会で検討された課題

日本語習得が十分でないと、就学しても授業についていけず不登校になってしまうケースも考えられ、日本語学習支援は外国人児童・生徒にとって重要な支援であるといえる。日本語学習支援のひとつとして現在実施されている日本語特別指導について、初期指導として60時間という時間では不十分な子どもたちがいるかどうか、また、日本語学習支援が必要な子どもたちのうちのどれくらいをサポートできているのか等を検証する必要がある。子どもたちを多方面から支援するために、ボランティア日本語教室と学校との連携も必要である。また、子どもがスムーズに学校生活に溶け込めるよう、就学前にあいさつ程度の日本語を学ぶ「就学前支援」や義務教育年齢を超えた子どもたちへの対応の必要性も考えられる。就学支援としては、これまで、2011年度から「虹の架け橋教室」(区内団体が国際移住機関から受託した事業、大田区共催、2012年8月末終了)を実施した。

日本語学習支援や就学支援の方法は多数考えられるが、現状では大田区内の7～15歳の外国人のうち半数以上が区立学校に通学しており、区立学校以外(私立学校やインターナショナルスクールなど)に通学している子どもを含めると、不就学の外国人児童・生徒の数はそれほど多くないことが予想される。ニーズを把握し、適切な支援策を検証することが必要といえる。

必要な支援は、言語だけではない。もし、外国人の子どもが日本語を十分に話せるようになったとしても、親が日本語を話せず、社会や地域とコミュニケーションがとれない家庭環境であると、日本社会についての理解が不十分となり、子どもの就学に支障をきたす可能性もある。このことから、子どもの支援のためには、親、さらには家族全体を支援する必要があると考える。



▲子ども向け日本語教室  
レベル別に少人数制で指導を行っている。

一方では、外国人区民の子育て支援を有効に広げていくには、日本人区民の協力者を増やすことが重要であり、そのためには日本人区民の「多文化共生」に対する理解の深まりが不可欠である。現状では、日本人区民が外国人区民をとりまく環境を知り、どのような支援が必要とされているかを学んだり、外国人区民と関わりをもったりする機会

が少なく、「多文化共生」への理解が浸透しているとは言い難い。

### ◆多文化共生のまちづくりへの今後の取組

外国人区民の子育て支援のためには、1点目として外国人区民と日本人区民が関わり合う機会をもっと増やすことが大切である。関わりをもつことにより、外国人区民の孤立化を防ぐと共に、日本人区民が多文化共生について理解を深めることができる。双方が関わりをもつためには、イベントを開催して出会いの場を創出したり、外国人区民と日本人区民が防災訓練などに一緒に参加して共通理解を醸成したりすることが効果的である。地域と関わりの深い青少年対策委員会と連携するのもひとつの方法である。これらの活動を契機に外国人区民が自治会や町会に加入して日本人区民と共に地域活動に関わることが、隣人としての関係を築き、災害時の共助にもつながる。また、多様な文化的背景をもつ職員により、区政における多文化共生施策がより推進されるのではないかという意見も出た。

2点目に、外国人・日本人の子どもたちが多文化共生の担い手として成長するようサポートをしていくべきである。ここでいうサポートとは「担い手になりなさい」と子どもに押し付けるのではなく、子どもが多文化共生の活動でリーダーシップを発揮できるような機会をつくって自信をつけさせたり、子どものうちから異文化に触れられるような環境を整えたりすることである。例えば学校においては、学級委員や部活のキャプテンなど、子どもがリーダーシップを発揮するチャンスは、外国人・日本人に関わらず平等に与えられるべきであり、日本語習得のレベルや家庭環境などがその妨げになるようなことがないよう周りの支援が求められる。外国人・日本人と一緒に参加する子ども向けのイベントを開催したり、多文化共生について理解がすすむような子どもへの教育機会を増やしたりして、子どもたちに多文化共生の意識が身につけば、その親や家庭全体にも波及することが期待できる。

外国人を含め、皆が「大田区に住みたい」「大田区で子どもを育てたい」と思うまちをつくるのが、多文化共生社会の実現、ひいては、大田区の活性化につながる。



▲さまざまな国の人たちや異なる文化と触れ合えるイベント

※mics (ミックス) おおた  
おおたくたぶんかきょうせいしんせんたー くみんかつどうしえんしせつかまた しせつ そうしょう  
「大田区多文化共生推進センター」と「区民活動支援施設蒲田」の2つの施設の総称  
(micsはMultilingual Information and Collaboration Squareの頭文字をとった略称)。  
おおたくせっち うんえい じぎょういたく  
大田区で設置し、運営は事業委託している。



てーま じょうほうていきょう  
**テーマ2：情報提供**

じょうほうていきょうしゅだん たようか  
**【1】情報提供手段の多様化**

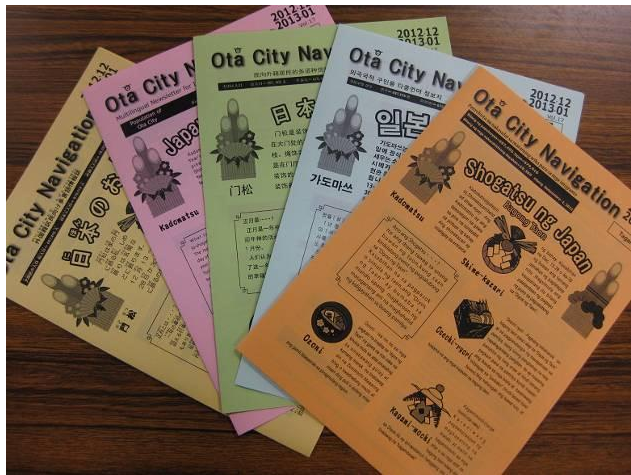
おおたく とりくみ  
◆大田区の取組

がいこくじんくみんむ たげんごじょうほうし ねん かいほつこう ぎょうせいじょうほう せいかつ  
外国人区民向け多言語情報紙「Ota City Navigation」を年10回発行し、行政情報や生活  
じょうほう くないざいじゅうがいこくじん ひつよう じょうほう ほっしん かくぶきよく  
情報など区内在住外国人にとって必要な情報を発信している。また、各部局において、「ご  
みのだしかた」「ぼうさいちず とう たげんごかばんふれつと さくせい はいふ ほーむぺーじ  
みの出し方」「防災地図」等の多言語化パンフレットを作成、配布している。ホームページ  
では、英語、中国語、韓国語の3か国語へ自動翻訳する機能を備え、日々の区政情報を迅速  
ていきょう そーしゃるねつとわーくさーびす いか  
に提供している。ソーシャルネットワークサービス（以下「SNS」という）としては2012  
ねん がつ つい ったー はっしん かいし い べんと じょうほう きんきゅうじょうほう じんそく ていきょう つと  
年10月にツイッターの発信を開始し、イベント情報や緊急情報を迅速に提供するよう努  
めている。

きょうぎかい けんとう くだい  
◆協議会で検討された課題

たげんご ばんふれつと さく さくせいもと  
多言語パンフレットは作成元の  
かくぶきよく はいふ おも  
各部局での配布が主のため、  
ばんふれつと せんざいじたい くみん し  
パンフレットの存在自体が区民に知ら  
れていないこともある。多言語情報紙  
「Ota City Navigation」は区施設、駅で  
はいふ こくさいこうりゅうだんたい つう  
の配布、もしくは国際交流団体を通じて  
はいふ じょうほうし せんざい  
配付している。しかし、情報紙の存在に  
ついてのあびーる た くみん なか  
でのアピールが足りず、区民の中  
じゅうぶん し じょうきょう  
も十分に知られていない状況である。

く ほーむぺーじ じどうほんやくきのう  
区のホームページは自動翻訳機能の  
せいど たか し じょうほう けん  
精度を高めてほしい、知りたい情報が検  
さく いけん がいこくじんくみん よ  
索しにくいとの意見が外国人区民から寄  
せられている。ツイッターなどのSNS  
は、記入者がそれぞれの言語で書き込む  
ため、その言語がわからない読者には情  
ほう かんぜん きょうゆう むずか どうこう  
報の完全な共有は難しい。また、投稿さ  
れたじょうほう せいかく ばあい  
れた情報が正確ではない場合がある。



おおたく げんご えいご たがろぐご  
▲大田区が5言語（英語、タガログ語、  
ちゅうごくご はんぐる るびつきにほんご  
中国語、ハングル、ルビ付日本語）で  
はっこう じょうほうし  
発行している情報紙「Ota City  
Navigation」。外国人向けの情報がた  
くさん けいさい  
くさん掲載されている。

く はっしん にほんご じょうほうぜんぱん きょうつう ぎょうせいようご しょう わ  
区が発信する日本語での情報全般に共通して、行政用語が使用されていて分かりにくい  
との指摘がある。

さいがいじ がいこくじん じょうほうはっしん しく で き  
災害時における外国人への情報発信の仕組みが出来ていない。

### ◆多文化共生のまちづくりへの今後の取組

たげんご ばんふれっと はいふぼしょ ひろ しゅうち はいふほうほう けんとう ひつよう  
多言語のパンフレットは配布場所を広く周知するとともに配布方法を検討する必要があ  
る。多言語情報紙「Ota City Navigation」はメールマガジン形式で配信することで定期  
購読者を増やすなど工夫が必要である。

ほ ー む べ ー じ じゅうよう じょうほう じどうほんやく やくしゃ たいおう ほう よ じゅうよう  
ホームページでは重要な情報は自動翻訳ではなく訳者が対応した方がよい。また重要  
な行政情報を取捨選択して抽出し、わかりやすく提供する。ちなみに医療情報等では  
訳者翻訳を開始しているものもある。また、多言語情報紙「Ota City Navigation」は訳者  
による翻訳であるので、この翻訳原稿を活用し、レイアウトを工夫し、わかりやすい  
ホームページ作成を行うことが可能であると考えられる。

も じ よ な ひと ゆ ー ち ゆ ー ぶ とう どうがこんでんつ つか  
文字を読むことに慣れていない人のためにはユーチューブ等の動画コンテンツを使って  
情報を提供する方法もある。この様にインターネットを積極的に活用する一方で、  
インターネットを利用できない区民への配慮も必要である。SNSについては情報の  
正確性の問題があるので、区民がこの点を認識し、「複数のメディアで検証する、発信元を  
明記する」というルールを守ることが重要である。

く はっしん じょうほうぜんぱん かん へいひ ひょうげん つか ぎょうせいようご い か い み  
区が発信する情報全般に関しては、平易な表現を使い、行政用語の言い換えや、意味を



そ える くふう おこな がいこくじん ふく  
添える工夫を行い、外国人も含め  
た誰にでも理解できる文章での  
情報提供を目指す。

さいがいじ、 がいじゅうがいこくじん  
災害時は、在住外国人それぞれの  
にほんごりかい れべる こと  
日本語理解レベルが異なることを  
こうりょ ひなんじょ あんないばん しせつない  
考慮し、避難所への案内板や施設内  
ひょうじ だれ ぶんしょう  
の表示を誰にでもわかるサインで  
しめ ひつよう いる がいこくじん  
示す必要がある。一方で、外国人  
じしん ぼうさい かん きほんてき ようご  
自身も防災に関する基本的な用語  
にほんご りかい ぶんしょう  
を日本語で理解できるような備え  
ひつよう  
が必要となる。

ぶんかかい ようす  
▲分科会の様子  
たいめんしき れいあうと はな はいち  
対面式のレイアウトではなく、話しやすい配置  
くふう おこな  
になるよう工夫して行った。

お お た く た ぶ ん か き ょう せ い す い し ん せ ん た ー かつ ょう  
【2】大田区多文化共生推進センター (mics おおた) の活用

お お た く と り く み  
◆大田区の取組

mics おおたで、多言語による外国人の生活相談や行政文書の翻訳業務、区役所内への通訳派遣を行っている。日本語教室、国際交流ボランティアの養成、多文化共生理解の推進イベント、法律相談、情報提供などもしている。

防災対策として、地域防災訓練に外国人の参加を促し、外国人が災害時の対応を学び、災害への危機管理意識を高める場を提供している。

き ょう ぎ かい けん とう か だ い  
◆協議会で検討された課題

mics おおたの存在については、区民のみならず区職員の認知度が低く、既存の事業が十分に活用されていない。また、国際交流団体の活動も良く知られていない。さらに、普段から団体同士が連携し、情報共有する場が多くなく、ネットワークが十分に広がっていない。



▲mics おおたでは、多言語の相談を受け付けているほか、国際交流団体や日本語教室の情報なども提供している。

た ぶ ん か き ょう せ い こ ん ご  
◆多文化共生のまちづくりへの今後の取組

mics おおたが区民にもっと活用されるために、以下のような取り組みが有効である。

か つ だ う  
○活動のPR

mics おおたの存在、活動内容を広く伝える。具体的にはシンボルマーク等を積極的に活用する。外国人転入者が立ち寄る戸籍住民課の窓口でmics おおたの案内を置く。また、日本人区民向けには各出張所の地域力推進会議等において、mics おおたの紹介を行い、顔の見える関係を築いていく。

た げ ん ご し り ょう し ゅ う や く  
○多言語資料を集約

mics おおたに「ごみの出し方」「防災地図」等の多言語資料を集約し、インフォメーションセンターの機能を高める。

こーでいねーときのう きょうか  
○コーディネート機能の強化

こじんかん ネットワーク だ たぶんかきょうせいりかい すいしんいべんと かいさい がいこくじん  
個人間のネットワークを生み出すためには、多文化共 生理解の推進イベントの開催や外国人の  
あいだ さか りよう ふえいすぶっく かいせつ こうかてき だんたいかん  
間で盛んに利用されているフェイスブックの開設が効果的である。団体間においても、mics おおたが  
ちゅうしん こくさいこうりゅうかんけいだんたい じょうほうこうかん かっぱつか とも ネットワーク こうちく  
中心となって国際交流関係団体の情報交換を活発化させると共に、ネットワークを構築する。

さいがい そな く やくしょ とくべつしゅつちょうじょたんい がいこくじんくみん しょざいじょうほう たげんご しえんかのう  
また、災害に備えて、区役所の特別出張所単位で外国人区民の所在情報や多言語で支援可能な  
にほんじん じんざいじょうほう めいぼとう さくせい ほっさいじ あんびかくにん しえんたいせい  
日本人の人材情報をまとめ、名簿等を作成することは、発災時の安否確認や支援体制づくりに  
こうかてき いっぼう こじんじょうほう かんり しゅひぎむ ふく じゅうぶん りゅうい ひつよう  
効果的である。一方で、個人情報 の管理には守秘義務を含めて、十分に留意する必要がある。  
さくせい かつよう こくさいこうりゅうだんたい がいこくじんくみん きーぱーそん きょうどう とく  
作成は mics おおたを活用し、国際交 流団体や外国人区民のキーパーソンが協働して取り組む。

### 3 おわりに

静岡県浜松市に在住する立場ながら、縁あって東京都心の大田区で多文化共生推進協議会のお手伝いをする機会を得た。私が住む浜松市はブラジル人など日系人の比率が高く、多文化共生の課題は大田区のそれとはかなり異なっている。むしろ私自身が委員の皆さんから多くを学ばせてもらった。

大田区の協議会で強く印象に残っている点が二点ある。第一は、委員の皆さんがそれぞれに広範な経験を持ち、多文化共生をめぐる長期的な視点を持っていたことである。多文化共生の協議会はしばしば「地域の課題をどう解決するか」という議論に終始しがちだが、大田区の場合、子どもたちの世代の未来を見据えるような視点からの意見交換がなされた。第二は、委員の自主的活動が活発に行われた点である。意見交換会や日本語教室見学など、貴重な時間と労力を協議会に関連した活動に費やしてくれた委員も多かった。こうしたインフォーマルな関係が下地になって、協議会の場でも活発な意見交換が実現した。

私も座長として分科会方式を採用し、限られた協議会の時間の中で多くの方が発言できるように、また日本語を母語としない委員も発言しやすいように心がけた。議論のとりまとめ役として縁の下の力持ち役となってくれた事務局にも心からの感謝を表明したい。

この報告書は具体的な施策をいつまでに実現させるかまで細かく規定したプランではない。しかし、多文化共生社会の実現に向けた大きな方向性をしっかり指し示しており、そこから大田区の各部局、そして区民の皆さんが、それぞれが立場でどのように地域と関わってゆくとよいか導かれるはずである。多文化共生とは、外国人住民という鏡に地域社会の姿を映し、あるべき社会のあり方を考えることだとも言える。この報告書が大田区における多文化共生推進の大きな指針となれば幸いである。

おおたくたぶんかきょうせいすいしんきょうぎかいかいちよう  
大田区多文化共生推進協議会会長

いけがみ しげひろ  
池上 重弘

しずおかぶん かげいじゅつだいがくぶんかせいさくがくぶこくさいぶんか がっかきょうじゅ  
(静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科教授)

し りょう  
4 資 料

ねん どきょうぎかいさいについて  
(1) 2012年度協議会開催日程

だい かい ねん がつ にち  
第1回 2012年7月11日  
だい かい ねん がつ にち  
第2回 2012年9月12日  
だい かい ねん がつ にち  
第3回 2012年11月13日  
だい かい ねん がつ 20 にち  
第4回 2013年2月20日

いいん にんい じしゅわーきんぐ じっし  
・このほか委員の任意により自主ワーキングを実施した

いいんめいぼ  
(2) 委員名簿

かいちよう 会長	いけがみ しげひろ 池上 重弘	がくしきけいけんしゃ 学識経験者
ふくかいちよう 副会長	すずき あきひこ 鈴木 昭彦	こくさいこうりゅうだんたい かつどう くみん 国際交流団体で活動する区民
ふくかいちよう 副会長	こやま きみこ 小山 君子	じ ち かいちようかいかんけいしゃ 自治会 町会関係者
いいん 委員	うしくぼ める 牛久保 メル	がいこくじんくみん 外国人区民
いいん 委員	おう うこう 王 羽鶴	がいこくじんくみん 外国人区民
いいん 委員	ちよん ほんさ 千 憲司	がいこくじんくみん 外国人区民
いいん 委員	かつまた ゆきこ 勝又 幸子	にほんじんくみん 日本人区民
いいん 委員	すなが みきこ 須永 幹子	にほんじんくみん 日本人区民
いいん 委員	ふじた ひろし 藤田 博司	にほんじんくみん 日本人区民
いいん 委員	いじま ときこ 飯島 時子	こくさいこうりゅうだんたい かつどう くみん 国際交流団体で活動する区民
いいん 委員	おぼら きりこ 小原 季里子	こくさいこうりゅう ぼらんていあ 国際交流ボランティア
いいん 委員	じよ みつこ 徐 みつ子	こくさいこうりゅう ぼらんていあ 国際交流ボランティア

いいん 委員	ながみ まさとし 永見 正敏	こくさいこうりゅうぼらんていあ 国際交流ボランティア
いいん 委員	しみず こうじ 清水 耕次	おおたくちいきりよく こくさいと したんとうぶちょう 大田区地域力・国際都市担当部長
いいん 委員	やまわき けいぞう 山脇 啓造	がくしきけいけんしゃ ねんどかいちょう 学識経験者 (2011年度会長)  てんきよ ねんど たいにん ※転居のため2012年度は退任
いいん 委員	うえの ろーな 上野 ローナ	がいこくじんくみん 外国人区民  てんきよ ねんど たいにん ※転居のため2012年度は退任

ぶんかかい  
(3)分科会

こそだ しえんぐるーぶ  
◇子育て支援グループ

こやま きみこ 小山 君子	じちかいちょうかいかんけいしゃ 自治会町会関係者
ちよん ほんさ 千 憲司	がいこくじんくみん 外国人区民
かつまた ゆきこ 勝又 幸子	にほんじんくみん 日本人区民
ふじた ひろし 藤田 博司	にほんじんくみん 日本人区民
いじま ときこ 飯島 時子	こくさいこうりゅうだんたい かつどう くみん 国際交流団体で活動する区民
ながみ まさとし 永見 正敏	こくさいこうりゅうぼらんていあ 国際交流ボランティア
しみず こうじ 清水 耕次	おおたくちいきりよく こくさいと したんとうぶちょう 大田区地域力・国際都市担当部長

じょうほうていきょうぐるーぶ  
◇情報提供グループ

すずき あきひこ 鈴木 昭彦	こくさいこうりゅうだんたい かつどう くみん 国際交流団体で活動する区民
うしくぼ める 牛久保 メル	がいこくじんくみん 外国人区民
おう うこう 王 羽鶴	がいこくじんくみん 外国人区民
すなが みきこ 須永 幹子	にほんじんくみん 日本人区民
おばら きりこ 小原 季里子	こくさいこうりゅうぼらんていあ 国際交流ボランティア
じょ みつ子 徐 みつ子	こくさいこうりゅうぼらんていあ 国際交流ボランティア

- かんけいぶじょう ほうほうか ほうさいか こそだ しえんか がくむか しどうか  
◇関係部局 広報課、防災課、子育て支援課、学務課、指導課  
じむきょく ちいきしんこうかたぶん かきょうせいたんとう  
◇事務局 地域振興課多文化共生担当